

## 資料

# 茨城県内の迷信の實態(その二)

## ・ 總務部調査課調

- (84) 七月七日朝早く腰から下を川水に浸すと病氣にならない
- (85) 七夕の竹を畠に立てると虫が生じない
- (86) 土用にいんげん豆をまかない
- (87) 土用のうちの暗黒日は結婚、婚約、移転相談事、旅行等は悪い
- (88) 土用には耕地以外の土をいぢらない
- (89) 土用の丑の日に鰻を食べると、精力増強となる又夏負けず三年長生する
- (90) 土用に西風が吹けば大水がでる
- (91) 土用の丑の日には薬が降るから薬草をとるとよい
- (92) 土用と寒に土を移動すると主人又は家人に災やぐがある
- (93) 寒三十五日冷水をのむと病氣をしない
- (94) 寒中みそをつくるものでない
- (95) 寒中に雷があると「寒雷鎌いらず」といつて田の米が不作になる
- (96) 大晦日に一睡もしないで早朝お詣りをすると一年間詣つたのに相当し幸運がある。
- (97) 大晦日に小豆飯を炊いて神棚に供え四日にそれをふかして食べると幸福に暮せる
- (98) 冬至に南瓜を食べないと蛆になる
- (99) 冬至に南瓜を食べないと癩病になる
- (100) 冬至に南瓜を食べると中風にかからない
- (101) 夏至に小豆三粒と糞とを冷水でのめば夏の悪夜にかからない
- (102) 夏至の日に田植えをすると人が死ぬ
- (103) 八十八夜に新茶をのむと中風にならない
- (104) 八十八夜過ぎて西風が吹くと七十五日目に大出水がある。
- (105) 正月六日に山に入ると舂して初めて山に入り供えものをし薪を少しでもよいからとつてくる
- (106) 正月六日前に山入りするとけがをする
- (107) 正月中悔みのあつた家ではお茶をのまない
- (108) 一月八日林に入ると火元となる
- (109) 二月八日山に入ると足を病む
- (110) 四月八日午前中は農作業に鍬鎌を使わない
- (111) 四月八日竹山の中に入ると薬水が落ち身体が丈夫になる
- (112) 四月四日には田に入らない
- (113) 四月十日には田に入らない
- (114) 五月六日に田の中へ入ると片足が太くなる又五日も同じ
- (115) お盆の十三日に水泳をするとカツバに引込まれる
- (116) 舊暦の七月十日に神参りすれば四萬千百日の神参りしたことになる
- (117) 八月十五日に雨が降れば大麥が不作
- (118) 二百十日を災厄日と舂して神に祈禱をする
- (119) 十二月一日に餅を川へ投げそれを食べると齒痛がなほる
- (120) 舊十二月一日川に投げた餅を食べると腹痛がなほる
- (121) 舊十二月八日と二月八日は悪日でその夜は厄病神が通るため家毎に目籠を門或は屋根に掲げて厄除けする
- (122) 月の八日と二十四日に病氣にかかると長くかかる
- (123) 九の日に醫者にかかると長びく
- (124) 神様のいる日として一日、十三日、二十八日は醫者にかからない
- (125) 八日寅の日には裁物、旅行はさける
- (126) 月の二十八日に山へ行くと怪我をする
- (127) 舊暦八日と二十四日には山の神様の御参會なので山仕事をしない
- (128) 一日と十五日の日には汚物の洗濯をしない
- (130) 二十四日酒をのむと怪我をする
- (131) 十二月八日は山仕事をしない
- (132) 赤口の日の結婚は悪い
- (133) 婚禮は友引、大安、みつは神祭り家造り婚姻たねまき土を動かすによい
- (134) 佛滅に苗代の種子をまくととのびが悪い
- (135) 陰陽に於ける友引は倭を引く友を引くといつて凶事を忌む風習がある、佛滅に祝儀をしない
- (136) 佛滅は凶大安は吉(旅行仕事すべて)、佛滅に病氣をすると長い
- (137) 三りんぼうに屋根ふきをしない
- (138) 不淨日には醫者にはかからない
- (139) 不淨日に縁談は一切不可
- (140) 不就日に仕事始めは悪い、又その日は何事も成就しない
- (141) 不就日に結婚式を舉げると破談になる
- (142) 不就日に播きものをしない

### (二) 方位に関する迷信

- (1) 分家する場合は本宅の西側でなければならぬ
- (2) 鬼門病門の方に井戸を掘つたり建物を建てたり不淨物を置くくと死んだり病人が出る

- (3) 鬼門屋敷はつぶれる
- (4) 鬼門に土を置くと病人が出る又鬼門に向つて家を建てない又縁組をしない
- (5) 玄關を北向にしてはいけない
- (6) 北枕に寝ることはさける
- (7) 辰巳の方に井戸を掘ると家運がよくなる
- (8) 辰巳の方を不潔にすると病人が絶えない
- (9) 暗剣殺の方角の土を動かすと命にかかわる
- (10) 暗剣殺の方を向いてお産すると難産する
- (11) 本命と暗剣殺に向つて移転をしたり旅をしたりすると必ず死ぬ
- (12) 便所が寅の方にあると良人が中風になり又相續人が災難に逢う
- (13) 未申(南々西)丑寅(北々西)の方角には旅行しない
- (14) 本家の東南方に分家を出すと本家が衰える
- (15) 神棚や佛壇は九星に因つて位置をきめる
- (16) 東西南北の正当に建物があると家人が病弱となる
- (17) 病人が方角の悪い医師から療治をうけてもならない
- (18) 土取神にお祈りして井戸はどの方向へ掘らなければならぬかをきめる
- (19) 家の向きが悪いとその家に病人又は兇事が絶えない
- (20) その年の方角の悪い方から嫁はもらわない
- (21) 方位の吉凶により縁組出産、の汚物処理、建築の場合の家の向き方をきめる
- (22) 夜日柱を立てば倒れた方向に火事がある
- (23) 良い方角の松葉をかみしめて胃の薬になる
- (24) 金神様がるところをほると病氣になる
- (25) 西向きにかまどをつくると家運が傾く

### (三) 民間療法及び薬物に関する迷信

- (1) すりめを食べると流産する
- (2) 妊婦が火事を見ると子に赤あざが吹き死人を見ると黒あざが出来る
- (3) お母さんに乳はれ草を見せると乳がはれる
- (4) ほうづきの根を煎じて吞めば胎児がおちる
- (5) 妊娠中死人に手を付けるとか又其の家の者が穴道(墓穴掘り)を受けると出産する時不幸を導く
- (6) 妊娠した犬が死んだとき非むると安産する
- (7) 妊娠中の者が四足動物を食べると怪童又は片輪の子が生れる
- (8) 妊娠中兎の肉を食べると三つ口の子が生れる
- (9) 出産のとき物指を産婦に知れない様にふとんの下に入れて置くと安産又安産地藏尊の麻を借りて使用すれば安産する
- (10) 蛇のからをふむとお産が重い
- (11) 初産婦には鶏の初卵を食べさせると良い又初卵は

### 中風によい

- (12) 女性が馬の手綱を跨ぐと十三ヶ月も妊娠期間がある
- (13) 女性が臥に座るとお産が重い又臥の口の様な大きな口の子供が生れる
- (14) 妊娠中南瓜を食べると癩病になる
- (15) 産婦に脂肪類を食べさせると目が悪くなりふきでものができる
- (16) 猿の頭の黒焼は婦人病に良い
- (17) 産婦人が砂糖をなめると乳がでなくなる
- (18) 苺は風邪によくき産後にもよい
- (19) 銅墨を女がふむと子宮病になる
- (20) お産の時雨引地藏のローソクをいたでいてくと全部燃えない中に必ず分娩する
- (21) 水天宮様のお札を産婦が水に浮べて三口のむと安産する
- (22) うるしにかせた場合その木と豆腐を棒げて酒盛りをすると必ず治る
- (23) たむしに墨をつけるとなおる
- (24) ふき出ものが顔などに出来たとき唱え言を云いながら草をかると治る
- (25) ざるを頭にかぶるとおできが出来る
- (26) 疣もつつじの花汁でこするとなほる又阿彌陀様より小石を借りて来て疣をこすり倍にして返すとなほる
- (27) 墓石についている苔は「くま」の薬になる
- (28) 蛇の油をいばやほくろにつけるととれる
- (29) 皮膚病をくわでさすると良い
- (30) 子供に水泡瘡ができたとき蓑をかぶつて火事だ火事だと三回云うと早くなほる又北向きの地藏様に頭布をかぶせると治る
- (31) 牛蒡の種は腫物の口を早く開ける
- (32) ふきの根は風邪薬になる
- (33) 頭痛の時梅干を頭にはると良い
- (34) 咽喉を害した時黒豆を砂糖で煮て食べるとよい
- (35) なめくじは百日咳に効く又ぜんそくがなほる
- (36) 金魚はぜんそくにきく
- (37) りんどう、なすのへたはせきどめにきく
- (38) ノンフェルエンザがはやつてきたら北向き地藏をおがむと良い
- (39) 百日咳が流行してきたら七草がゆを十軒からもらつて食べさせるとうつらない
- (40) 百日咳にかかつたら十字路に赤飯をあげる又地藏尊より麻をかりて首をしぼると良い或は家の門口へ徳利の中へ杉の葉と葦の葉をさしておくとよい
- (41) 「イナゴ」を食べると風邪が治り又産後によい
- (42) 風呂に入つて水を飲むと風邪をひかない
- (43) 感冒、結膜炎は薬人形を四辻に捨てるとなほる

- (44) 腎臓病は芭蕉の葉を床の下に敷くと快方に向う
- (45) たにしを食べると傳染病にかからない
- (46) きうりの葉を塩でもんでつけると暑氣をうけたとき効果がある
- (47) まむしの皮をはると化膿しない又まむしや縞蛇は肺病に効く
- (48) 仙人掌の根は腎臓病の良薬
- (49) 鶏の鶏冠又は鼠の黒やきをのむと寝小便が治る又鳩もよし
- (50) 泥芋をゆでて食べると流行病にかからない
- (51) 風呂の水を家族全部が終つた後毎夜三口づつめば無病息災である
- (52) 神佛への供えものを下げて食べると病氣が治る
- (53) 火鉢にたんづばを入れると病人が絶えない
- (54) 薬をのんだ包紙を焼かないと病氣が長くなる
- (55) 薬を茶でのむと薬効を失う
- (56) 病人が棟なりにねると長びくから奥行に平行してねる
- (57) 他人の子供の産毛を黒焼にしてのむと丈夫になる
- (58) 神に供えた水は薬になる
- (59) 「どんぐり」の實を食べるとドモリになる
- (60) 子供の夜泣きはお稻荷様に油揚げをあげると良い又東西南北共に虎という字を書いて逆にはると良い
- (61) 足がしびれたとき指先で額につばを三回つけるとなほる
- (62) 水薬を瓶口からのむと全快しない
- (63) 無花果の葉の湯は痔に良い
- (64) 馬ふんを煎じて呑むと丹毒がなほる
- (65) 心臓の弱い人は蜂の巣を煎じてのむとよい
- (66) 魚の骨がのどにつかえた時は佛の花の水をのむととれる
- (67) くちなしの実の黒焼きは打身に効く
- (68) 大晦日にそばを食べると萬病にかからぬ
- (69) 松葉で湯をたて入浴すると神経痛、リウマチスにきく
- (70) 朝梅干を食べると出かけると其の日の難をのがれる
- (71) 火傷に墨汁を塗ると早くなほる
- (72) 切傷には七色の雑草の露をしぼつて付けると血がとまる
- (73) 天然痘の流行又子供の呼吸器の流行するときは門に八ツ手唐辛子を吊すとかからぬ
- (74) たにしを食べると病氣がうつらない
- (75) 動物のきもを飲むと癩病が治る
- (76) 腎臓病にトウモロコシのひげ、せみのぬけがらへチャの水、ザクロの皮を煎じてのむと良い
- (77) しやつくりが出る時小血に水を一ぱい入れて箸を十字にしてのせてその皿の水をのむと治る、又大工が用いる墨つばの糸を患者ののどにまけば治る
- (78) しやつくりが出る時最初のと同時に親指を折ると後續がない
- (79) あかぎれにオオバコの葉がきく、又胃にも良い
- (80) 着物の縫目の綿屑は血止めになる、又刺煙草の粉もよい
- (81) 六三よけをする
- (82) 紅百合の花で身体の悪いところをなでるとよい
- (83) にんにくを食べると病人が出ない
- (84) 子供の麻疹の場合牛蒡種をのませて早く噴出す
- (85) 蜂に刺された時は里芋莖の汁をつける
- (86) 臍の上に梅干をはると乗物によわない
- (87) 粟の花を煎じて呑むと下痢止になる
- (88) 腹痛のとき赤んぼの臍をなめるとなほる
- (89) 南北にかかつたお宮の橋の下をくぐると麻疹にかからない
- (90) 鳥追いの火にあたると濕疹が出ない
- (91) 盲腸は米のあらを食べるとなほる
- (92) 十二指腸にはナメクジが良い
- (93) 胃病には生どじょうがよい
- (94) 玉子を十能でやいて食べると下痢止になる
- (95) 火葬する火で団子をやいて食べると悪疫が流行しても感染しない
- (96) お供えに敷いた紙をかむと腹痛がなほる
- (97) 赤痢のとき唐辛子又はしょうがの湯で下腹を浸すとなほる
- (98) 水天宮様のお札を子供にのますと下痢が治る
- (99) 瓦かけを煎じてのめば熱さましになる
- (100) 蚯蚓を煎じてのむと下熱劑となる
- (101) セミのぬけがらは下熱に良薬
- (102) 熱病の際に十字路に綿と唐辛子を竹ではさんでたてるとよい
- (103) 鯉の生血は肺炎に効く
- (104) 肺病の場合は馬肉を胸にはる
- (105) ものもらいが出きた時小豆を井戸の中へ落すとなほる又他家より食物をもらつて食べるとよい
- (106) 眼病は海水で洗う
- (107) 村内にある薬師堂にお詣りしてその井戸水で眼を洗えば眼病が治る
- (108) 眼病は舊四月八日の甘茶で眼を洗うと治る又不動尊の水で洗うと治る
- (109) 観音堂の柱にめと書いた紙を貼りつけると眼病がなほる
- (110) 燕をとらえると眼病になる
- (111) 歯が痛む時はそら豆をやいて地藏尊の前に埋めこの豆が芽をふくまで痛くならない襟顏いをかける
- (112) 虫歯痛の時糸と云う字を書いて柱に釘で打つとなほる

(以下次号)